助けあい、支えあいでつくる親子の交流の場

一時保育スペース・子育てサロンの取り組みをご紹介します

東日本大震災により被災され、厚別区内に避難されてきた親子向けの一時保育スペースと子育てサロンが誕生しました。参加するのも運営するのも避難して来た方たち。お互いに支え合いながらの札幌での子育ての様子をご紹介します。

一時保育スペースの取り組み

厚別区内に、避難者同士でつくる自治組織によって運営される一時保育スペースが誕生しました。

小さなお子さんがいる世帯の方が被災地から避難して来て、こちらで求職活動を行う・働くというときに大きな問題となったのが、子どもの預け先でした。そこで、避難者の就労支援の一環として開設されたのがこの一時保育スペースです。ここでは、同じく避難されてきた方たちが有償ボランティアとして子どもたちを見守っています。中には保育士の経験がある方もいらっしゃるそうで、代表の宍戸隆子さんの「就労支援の場であると同時に、雇用創出の機会になれば」との思いが込められています。

▲お昼ごはんの様子

▲かわいいぬいぐるみがたくさんあります

こちらの保育スペースは月～金の７時４５分から１７時まで開いており、１８時までの延長保育も可能とのことです。現在登録している子どもは４人で、取材に訪れたこの日は、３人の子どもたちが元気に遊んでいました。室内にはたくさんの絵本やおもちゃ、ぬいぐるみなどがありましたが、そのほとんどが市民から寄贈されたものだそうです。